

TAKE
FREE

VOL. 21

暮らしの発酵 通信

発酵特集 希少な作品から日常へ〈琉球藍のものづくり〉



ゆったりと流れる
沖縄時間の中で、
心と体をリセット



東シナ海と太平洋を一望できる北中城村の丘の上。
心地よい風が吹き抜ける古の時代から受け継がれた特別なロケーション。
食材にこだわり手間暇かけてじっくり仕上げた健康的な食事、
のんびりと過ごせるケミカルフリーの快適空間、心身ともに癒される大浴場、
自分を見つめ心と体の気づきへ導く洗練された施術、
滞在を通して心身ともに最高のリラクゼーションをご体感ください。

EM WELLNESS
暮らしの発酵
LIFESTYLE RESORT

ホテル公式サイト





1月下旬~2月上旬に見頃を迎える沖縄県のカンヒザクラ(寒緋桜)

定期発送お申し込みで

「暮らしの発酵通信」が
無料でお家に届くんです。

定期発送の
申し込みは
こちら！



暮らしの発酵通信

vol.21

人が生きる上で必要とされている衣食住。
〈衣〉は寒さをしのぎ、外からの刺激から私
たちを守り、いつもやさしく包んでくれ
る存在でした。



暮らしの発酵
通信

- 02 希少な作品から日常へ
琉球藍のものづくり
琉球藍研究所
嘉数義成さん
- 08 命のぬくもりをまとう
〈本場結城紬〉
岩田織物工房
岩田大蔵さん、和子さん、みどりさん
- 12 着物が教えてくれること
株式会社鞠小路スタイル
田中千衣子さん
- 16 地球も文化も“キレイ”を残す
〈クリーニングえどや〉
合資会社協和ランドリーえどや
田中喜昭さん
鹿角紫根染・茜染研究会
会長 関幸子さん

編集・文 里菌かこ 企画・発行 株式会社EM生活
 写真 鈴木綾 愛知県名古屋市名東区極楽
 デザイン 宮城クリフ 5丁目148番地
 田邊雄平 info@kurashinohakko.com
 協力 EMウェルネス 暮らしの発酵
 表紙イラスト 山里美紀子 ライフスタイルリゾート

暮らしの発酵通信は無断での転載と転売を禁止しております。

2025年1月発行

個人様に
最新号1冊



店舗様に
まとめて25冊



琉球藍のものづくし



沖縄でかつて高官から庶民まで広く愛されていた(琉球藍)。職人が減り、消滅の危機に瀕していた琉球藍を産業として復活させようと動いている人たちがいる。林と化した耕作放棄地の開墾から取り組み、身近な衣類や日用品の中に琉球藍を蘇らせようとしている。

沖縄県 豊見城市

世界の藍と琉球藍

いつの時代も人々を魅了してきた「藍」の色。日本では徳島県の藍染が特産品として有名だが、実は沖縄県にも「琉球藍」と呼ばれる藍染がある。

藍は人類最古の植物染料と言われ、紀元前2000年頃にはすでに藍染が行われていたという史実がある。日本には5世紀頃に渡来人によって伝えられたとされ、16世紀初め頃に木綿の普及と共に広まっていった。沖縄の藍染の起源は不明確だが、主に沖縄本島北部の山間部で栽培・染めが盛んで、琉球王朝時代には藍染の染料や染織品が国外への献上品や換金作物として取引されていた。

世界には藍染の染料となる植物が約10種類あり、いずれも青い色素(インディゴ)の元になるインディカンを含む。マメ科やタデ科、アブラナ科などその形状も植生も様々。琉球藍に用いられるのはキツネノマゴ科に属するリュウキュウアイで、徳島県

徳島の
タデアイの葉



東南アジア原産のタデアイ。徳島県が主産地で、堆肥状に発酵させた糞を作って藍染に利用する。

沖縄の
リュウキュウアイの葉



インド北東部原産のリュウキュウアイ。ヤマアイ(山藍)、トウアイ(唐藍)とも呼ばれる。

の藍染で利用されているタデ科のタデアイよりも葉が大きく丸いのが特徴。タデアイは藍の葉を乾燥・発酵させて染料(すくも)を作ると、色素成分を抽出する方法(桑法)を用いるが、リュウキュウアイは葉を水に漬け込み発酵させて、泥藍と呼ばれる状態を作ると色素を取り出す方法(沈殿法)でしか色素を抽出することができない。どちらの藍も抽出された色素成分は水に溶けない性質のため、そのままでは染料として利用できず、糞も泥藍も一旦水に溶かして菌を育てて発酵させることで、染料として利用できるようになる。

琉球藍を身近なものに

琉球藍は戦後、化学染料や衣類の変化によって激減し、一時期は藍の葉から泥藍を作れる職人がたった一人となった。そもそも沖縄県は、琉球紅型や、やちむん(焼物)、琉球ガラスなどの工芸品があまりにも有名で琉球藍の知名度は低い。



琉球藍研究所
かかずよしなり
嘉数 義成さん

1984年沖縄生まれ。沖縄県内のデザイン系専門学校を卒業し、洋服づくりの仕事をした後独立。沖縄の伝統、琉球藍を伝えていく為に原料から育てる事が大切だと考え、丁寧に一から育てられた琉球藍を日常に取り入れ身近に感じてもらいたいとウェアの染めの受付け、また自分で染め体験が出来る機会を提供している。

琉球王朝時代、藍染は高官たちの服や冠に利用されていたが、庶民の服の染直しにも使われていて、庶民にとっても身近な染料だった。そうした歴史もふまえ、琉球藍で染めた服を「特別な一枚」ではなく、若い人達も日常的に着られるものにしていきたいと取り組んでいるのが琉球藍研究所の嘉数義成さん。アパレルブランドを手がけるデザインナーという顔を持つ一方で、畑で琉球藍を育てて染料をつくり、他プラ

マッシュした歴史もふまえ、琉球藍で染めた服を「特別な一枚」ではなく、若い人達も日常的に着られるものにしていきたいと取り組んでいるのが琉球藍研究所の嘉数義成さん。アパレルブランドを手がけるデザインナーという顔を持つ一方で、畑で琉球藍を育てて染料をつくり、他プラ



(上)収穫してすぐに藍の葉を浸水させる。

(中)常に発酵の様子を見ながら引き上げるタイミングを狙う。

(下)できた泥藍をさらに発酵させると「藍の花」が咲く。



でも、そこからがまた大変で。使わせてもらえる土地が耕作放棄地だったんだけど、沖縄って雪が降るような寒い冬は来ないから、基本的に植物が枯れません。沖縄以外の地域でイメージする耕作放棄地とは全く違って、森とか林状態なんです。農地として整地されているわけでもありません。だから重機の免許を取って木々を掘り起こし、トラクターで整地して…農業というよりも、土木業ですね(苦笑)。とりあえず畑としての形ができたとしても、

微妙な土地の高低差や水はけがどうなっているのかまではわからなかったため、そもそも藍の栽培に適した土地なのか、大雨や台風が来た時に耐えられる畑になっているのかなど、栽培を始めてみないとわからないことばかりです。

最初の頃は車で片道2時間かけて4年間通いました。畑にテントを張って寝る日もありました。今は東村に移住し、事務所も任せられる人ができたのでだいぶ楽になっています。」



デザイナーとしてのペンをチェーンソーに持ち替え、木を切り土地をならし、藍の畑を整えていく。

「自分のルーツは沖縄にあるので、沖縄のもので服を作りたいと思っただんですが、琉球藍の現状を探っていくと、農業や生産現場の問題に行き着きました。今、琉球藍の葉を栽培している方も染めの職人さんもご高齢で、このままでは産業として衰退していく姿しか見えなかったんです。

苗植え…の前に林の開拓

伝統工芸やアート作品として琉球藍で藍染をしている人達はいませんが、僕は産業化を目指しているのでやりたい規模が違うんですね。ほとんどの人が50Lぐらいの容器で藍を発酵させていますが、僕らはその20倍である1トンの水槽を使っています。1トンの水槽に使う藍葉は100kg。藍葉は収穫したらすぐに浸水させないといけないので、染料を作る場所と畑が近くないといけません。

最初からこの規模感を想定していたんですが、一緒にやってくれる人を探しても見つかりませんでした。栽培も染料づくりも、任せられる人がいたらやってほしかったんだけど…。いないなら自分でやるしかない！と、失敗も含めて自分の経験してもらえなくなりました。

「素人が畑を借りるのってものすごく大変なんです。農業従事者や農家出身じゃないと借りられない所が多い。事務所が沖縄本島の中部にあるからなるべく近いところがいいと思います。最初は中部や南部で土地を探していましたが、借りられる土地が無かったので北上していききました。そもそも、藍の栽培をしないと『琉球藍って何?』と聞き返される始末で、藍染のことや琉球藍のことを色んな人に説明しました。毎日のように人に話していたら、人づてに紹介してもらえて、北部にある東村で土地を使わせてもらえなくなりました。

琉球藍を身近なものに!

藍染体験!



とみぐすく
沖縄県南部の豊見城市にある〈おきなわ工芸の杜〉。沖縄県の伝統工芸品に直接触れたり、若手の工芸作家の工房を見学したり、伝統工芸体験ができる施設です。
〈琉球藍研究所〉では、工房で用意しているTシャツなどのアイテムの他、染めたい服や生地を持ち込んで染めることができます。取材班も琉球藍染を体験してきました!

3日前まで



1 琉球藍研究所のInstagramのDMから予約。

当日(体験)



2 染めるアイテムを決める。または持ち込んだ服を計量してもらう。



5 出したい藍の色味になるまで、3~4の工程を繰り返す。



3 生地を水で濡らし、藍甕の中で染めていく。



6 水洗いをして完成。そのままお持ち帰り。



4 絞って軽く乾燥させる。



うまく染まりました!

体験時間・料金などはこちらからご確認ください。

予約

ご予約は琉球藍研究所のInstagramのDMへご連絡下さい。



お問い合わせ

琉球藍研究所
沖縄県豊見城市字豊見城1114番1(豊見城城址公園跡地内)工房4
tel:070-3803-9255



琉球藍研究所では藍をより身近にするために、靴を染めたり家具の塗料としての可能性を模索している。

林を開拓し、土地を整備し、藍の葉を育てても大雨で水没して全滅したこともあるという。それでも「1年目は藍の葉の収穫よりも土地の特性を知ることが目的」と、嘉数さんは新たに土地を開拓していく。

藍に寄り添う生き方
「僕は琉球藍の産業化を目指してはいますが、現段階では染料が全く足りていません。100kgの藍葉からできる染料はたった10kgです。服を染めるための槽ひとつにつき80kgの泥藍が必要なので、8回泥藍を作つてやっと槽がひとつできる計算です。しかも、染料の抽出は毎回状況が変わります。藍葉を水に沈めることで色素の元になる成分が溶け出していきますが、時間が経ち過ぎるといい成分まで出てきてしまいがちです。水から引き揚げる頃合いを見てもすぐにやらないとブルーの成分が取れなくなってしまうんです。うちでは大体48時間を目安にしています。酒蔵のようにこの槽の発酵菌が育ってきているのか、不思議なこと

に染料が抽出されるスピードがどんどん早まっています。日数が短くなると生産効率が上がりますが、毎回違うから常に見張っていないといけないんですね。
取材をしていただく時に、製造工程をすべて撮りたいという要望をいただきましたが、「藍に合わせてもらえるなら」とお答えしています(笑)。なかなかこちらの思う通りに動いてくれないので、藍の声を聴く毎日です。」
健康で長生きしている人々が数多く居住し、何世紀、数千年にわたって培われてきた人類の経験が隠されている特別な地域のことを「ブルーゾーン」*と呼ぶ。ブルーゾーンに生きる人々は、自然への畏敬の念と共生しながら世代を超えて受け継ぐライフスタイルを送っている。その世界5大長寿地域にアジアで唯一選ばれているのが沖縄だ。琉球藍染は沖縄の自然と人が織りなす技術の結晶であり、藍という自然に寄り添う生き方も琉球ブルーが教えてくれている。

RYUKYU BLUES PROJECT

動画で
もっとわかる!



命のぬくもりをまとふ

本場結城紬



着るほどに肌になじみ、その軽さとあたたかさが人気の（本場結城紬）。30もの工程を手作業で行うことで、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている。本場結城紬から感じるあたたかさは命のぬくもりだった。

日本最古・最高峰の（本場結城紬）

日本三大紬の1つ（本場結城紬）。紬とは繭から引き出した糸糸を使った織の着物のことを指し、絹独特の光沢と丈夫さで肌なじみの良さが人気だ。鹿児島県の大島紬、石川県の牛首紬に並び、日本最古・最高峰の紬として人々に親しまれている本場結城紬は、奈良時代より茨

城県と栃木県にまたがる鬼怒川流域で作られてきた。この辺りは元来養蚕業が盛んな地域で、紬は副業として生産されてきた。本場結城紬に使われる糸は蚕の繭を解きほぐしたままの繭糸を合わせて作った生糸ではなく、その副産物として集められた※真綿から手で紡ぎ出した糸を使う。生糸よりも太い糸になるため、奈良時代に朝廷に上納されていた当時は（本場結城紬）ではなく太糸の絹織物（紵）（悪しき絹）と呼ばれていた。現代は生糸の製糸技術が発達し、機械織りが主流となっているため、手織りの紬は高価な着物となっている。

※（本場結城紬）は本場結城紬卸商協同組合の登録商標であり、幅長さ、打ち込み数や模様など15項目の厳しい検査に合格したものに証紙が与えられる。（結城紬）は結城地方で作られた紬全般を指すことがある。

本場結城紬の人気の秘密はその軽さとあたたかさ。糸を手で紡ぐことで糸に撚りがかからずふわっとした感触がそのまま肌に伝わってくる。そもそも糸というものは、数本の織



真綿から糸を紡ぐ際には「ギギギ」と音が奏でられる。紬糸のでこぼこは紡ぐ人の命のリズムが宿る。

岩田織物工房 代表 岩田大蔵さん(右)

大学卒業後、京都の染めもの問屋「丁字屋」で3年間修行。半年間当時の繊維工業指導所にて染色の指導を受ける。その後岩田織物工房に従事し、従来の反物作りのほか結城紬のショールや名刺入れを製作。ネットショップやふるさと納税にて販売中。伝統工芸士（本場結城紬/染色部門）。妻の和子さん(左)も伝統工芸士（本場結城紬/製織部門）。



維をねじって互いに巻き付かせるようにして（撚りをかけて）一本の糸になる。撚りが強い方が丈夫な糸になるが、布に仕上がると硬くなり肌触りが悪くなる。手紡ぎの糸は無撚糸と呼ばれる、絹本来の柔らかさや風合いを感じられる技法だ。

※真綿（まわた）は綿という漢字を使うが、木綿ではなく絹のこと。

糸紡ぎから織まで

茨城県結城市にある岩田織物工房は3代続く本場結城紬の織元。本場結城紬が完成するまでには30もの工程があると「言われ、そのほとんどが分業

制になっている。一つの工程が終わると別の職人の元へ送られ、それを終えるとまた別の職人へと送られる。そのため、職人が継続できなくなった場合は製造が中断してしまう。そのような業界の中で、岩田織物工房は糸紡ぎから反物に仕上げるまでの一連の工程ができる数少ない工房だ。3代目の岩田大蔵さんはこう話す。

「本場結城紬は昭和31年に国指定・重要無形文化財に指定され、昭和52年には国の伝統的工芸品にも指定され、平成22年にはユネスコ無形文化遺産に認定されています。それだけ重要で貴重な伝統工芸品ですが、昭和55年には約3万反だった生産量は現在500反ほどでピーク時の1割にも満たない状況です。」

本場結城紬ができるまで

1 糸つむぎ

「つくし」に真綿を巻き付け、手で撚りをかけず一定の太さで糸を引き出し「おぼけ」にためます。これは世界に例を見ない技法です。



2 総あげ

管にとった糸を総あげ機に巻いて輪状にする作業。これにより糸を一定の長さに束ね、その後の工程での扱いを容易にします。



3 糊づけ

総上げされた糸に糊を付けます。糊は小麦粉をお湯で溶かしたものを使用します。糊付した糸は脱水し、乾かします。



4 整経

たて経糸をのべ台で往復しながら、所定の長さとお本数にそろえ、上糸と下糸を分ける作業です。



5 墨付け

設計図案をもとに拵くりを行う部分に墨で目印をつけます。



6 摺り込み

墨付けされた糸に水系を巻き付けたヘラで直接色を付ける作業です。摺りこみは一度色を付けたと直しができません。





綿密な図案を元に、糸に色を付けていく。失敗が許されない一発勝負の職人仕事。

「本場結城紬は好景気と不景気の波が大きいんですよ。僕は大学卒業後に不景気になり、結婚の時は景気が良かったんです。でもその後にはまた不景気になってしまいました。今は後継者不足もあって、糸が足りなくなったり、作ること自体が難しくなっています。」

本場結城紬は分業制になっているので、一つの工程の職人さんがいなくなると作れなくなってしまう。だから、一生懸命勉強して9割方自分たちの工房でできるようにしました。うちは元々織の職人なので染めはやらないんですが、危機感があったので学んで染めもできるようにになりました。」

「昔は住み込みで働く人がたくさんいたよ。」

地域に伝わる伝統工芸品の産地固有の技術・技法を習得した職人に与えられる国家資格に（伝統工芸士）という資格がある。2代目の岩田大さんとその妻みどりさんは伝統工芸士として活躍してきた二人だ。



岩田織物工房
茨城県結城市大字上山川2793
tel. 0296-35-0553

取材の様子は
こちらから



※機織りをする方の愛称

岩田織物工房の初代はみどりさんの義母である岩田さわさん。明治32年生まれのおさわさんは小学生の頃から機織りをしていて、賢い方だったそう。複数本束ねた糸を何十メートルにもばして色付けをしていた時代に、省スペースで効率の良い墨付け（色付け）のために研究を重ねた。さわさんとその友人が共同開発した機具は、現在は結城市の墨付け作業の主流となっている。

7 柄合わせ

縦糸の設計図（図案）に合わせて色を付けた糸を、織り手が柄を合わせやすいように糸を揃えていく作業です。



8 染色

濃地色の場合は、まず全体を染め、柄を出す箇所を糸でくり、更に染めて台にたたきつけて染料を染み込ませるとい、本場結城紬独特の染色方法を用います。



9 下ごしらえ

経糸を機織り機にかけけるまでの工程。糸は小麦粉を使い糊付けすることで、機織りの際に糸が切れにくくします。最後に織機に取り付けます。



10 地機織り

地機という、原始的な織機で織りあげます。千数百年もの柄では1年以上かけて作られるものもあります。



11 製品（反物）

すべての工程を含むと、簡単な柄でも3ヶ月以上、複雑な柄では1年以上かけて作られるものもあります。



12 整理作業（糊抜き）

反物を一晩お湯につけ、程良く糊を落としてから脱水し、伸子張りをして屋外で干します。こうすることで、紬本来の風合いを取り戻します。



13 着物

着物に仕立て上げた本場結城紬は、とても柔らかで暖く、着込むほどに色が冴え、からだになじんでいきます。本場結城紬は親子3代とも呼ばれ、代々受け継ぐことができる丈夫な着物です。



「辞めたいと思ったことは無いね。」

着物には大きく分けて二種類ある。白い生地に柄を染める「染めの着物」と染めた糸で柄を作り出す「織の着物」。本場結城紬は図面を元に先に糸に色を付け、織ることによって模様を出していく。伝統工芸士の資格の中で本場結城紬は染色部門、製織部門、製糸部門に分かれ、岩田大蔵さんは染色部門、妻の和子さんは製織部門の工芸士の資格を持つ。

「僕は今大きな顔をして3代目と名乗っているけれど、自分は何も始めていなくて、先代が本場結城紬の家業を大事に続けてきてくれたから今があります。両親の仕事も小さい頃からずっと見てきました。辞めたいと思ったことは無いですね。モノづくりって楽しいですよ。少しずつ形になっていく様子がわかるから。良いものが完成した時の喜びと

いったら何とも言えません。

9割方自分の工房で反物を作れ

手で紡いだ糸で作った（紬）。均一の太さにならない手紬の糸は、長い時間をかけて紡いできた人々のリズムが刻まれている。人を介して仕立てられた本場結城紬の着物は命のぬくもりを与えてくれる。



着物で寝ると、寝ている間に身体を整えてくれるような感じがする。

着物が 教えて くれること



まりこうじ
株式会社鞠小路スタイル
ちえこ
代表 田中千衣子さん

着物に縁がないまま育ち外国語大学でロシア語を学ぶ。1995年にモスクワへ留学し、帰国後に着物をはじめとした日本文化の素晴らしさに目覚める。京都を拠点に全国各地で無重力着付け講座を開催し、日々の暮らしの中で着物を着るライフスタイルを提案している。

無重力着付け®という一風変わった着付け教室を開催している田中千衣子さん。着物を着て健康になる？人生が変わる？…そんな不思議な体験談が飛び交う講座に全国から受講生が集まっている。

1着500円の着物からスタート

私は今、無重力着付けを通して「着物も和文化もすごい」と伝えてますが、元々は海外に行きたくて仕方がない人でした。海外行って異文化を感じるのが好きなんです。でも、海外に行くのと逆に「日本の文化って何だろう？全然知らない」と思うんですよね。それから神社や仏閣を巡ったりして日本文化を感じていきました。

日本文化に興味が出てきた頃に、友人が3ヶ月無料の着付け講座に行くから骨董市で着物を買に行くと言うので一緒に行きました。その時に、1着500円くらいで着物が売っていたから2〜3着買って着付け講座に行きました。

最初は着物を着られるだけで楽しかったんですが、周りで着物を着ている人を見るとキレイに着ている人、とそうではない人の違いが気になってきて、色々模索し始めました。上手に着られる方法を探るんだけど、キレイに整えるための小道具を勧められたり、着付けの手順は教えてく

れても「なぜその手順になっているのか？」は教えてもらえず、疑問は解けませんでした。

着物は楽で当たり前

私はロシアが好きなんですけれど、ロシアって装飾がすごく美しいのにトイレのドアのカギがずれていて閉まらないとか、壁掛けの電話が傾いているとか、なんか詰めが甘いんですよ(笑)。日本に来たロシア人が、日本のカフェの椅子の足の幅に荷物入れのかごがぴたりはまることに感動していました。日本人からしたら普通すぎて「そんなことで感動するの？」と逆に驚きますよね。

そうした文化の違いを見ていくと、日本の文化の中には日本人にとって当たり前すぎて気づかない、緻密な日本の知恵や技術が詰まっているんじゃないかと思いました。そういう視点で着物を見た時に、着付けの手順ではなく着物の仕組みに注目しました。例えば、右側のおはしよりがぶかぶかになる問題が

あるけれど、一枚の布なんだから反対側を引けばキレイに収まるんです。自分で着付けを教えるようになって、今まで手順だけを覚えて着ていた人に着物の構造から伝えると目からウロコだったようで、わかりやすいと評判になり徐々に生徒さんが増えていきました。

着付け教室の生徒さんからは「着物を着ていると気持ちがいい！」「体が軽い！」と言われました。着付けをしている時はその人の身体にピッタリくる部分を見つけて着させてあげていたんですが、オーダーメイドの服がその人の体型に合わせてつくられるから心地がいいのと同じように、その人の身体に着物をフィットさせることで「気持ちいい」という感覚になるということが分かりました。

「着物を着ているのに何も着ていないように身体が軽い」という生徒さんたちの声から、「無重力着付け®」という名前を着付けをするようになりました。

「着物は苦しくて動きにくいのが当たり前」と思っています

か？でも、明治維新がくるまで日本人は24時間365日ずっと着物を着ていました。家事も畑仕事も寝る時も着物だったので苦しくて動きにくかったら、とうの昔に廃れていくはずですよ。着物は苦しい」ではなく「着物は楽で当たり前」ということをみなさんに体感して

講座では着物の着方だけではなく、身体の使い方などの深い話も。



知的好奇心を満たすものから文化へ

着物って、よっぽど着物が好きな人しか続かないんですよ。好きであつても子どもが生まれたり忙しくなったり職場には着ていけなかったりで続かない。「誰かに見せるために着るもの・ファッション」の枠から抜けきれないんです。でも、このままだと着物が日本の文化として無くなってしまふという危機感がありました。

そうした中でふと「家で着ればいいやん」と思いついたんです。日常的に家の中で着ることが文化の土台になるし、着ているだけで身体が整うと感じられたら着物を着るようになる人も増えるかもしれないと思いました。実際、無重力着付けの生徒さんでも「友だちが無重力着付けに行つてその後調子が良さそうにしています。私は着物に全く興味がなかったけれど、体調を崩した時に『そうだ、無重力着付けに行こう』と思つて来ました」という方もいました(笑)。

「家で着るならどんな柄がいいかな?どんな布が心地良いかな?」と考えるようになり、そこから着物の販売を本格的に始めました。そうしたらコロナが来て「リモートだから家で着物が着られる!」という声が上がリ、家の中で着物を着るといふ生活が一気に広がりました。皆さん、掃除、洗濯、買い物、運転、料理や授乳だつて着物でこなしています。無重力着付けでは浴衣で寝ることを推奨していて、下手に高級な寝具をそろえるよりも浴衣で寝る方が身体が整うんじゃないかと思っています。人生の約1/3は寝ている時間なので、その間に身体に良い影響を与えたほうがいいですよ。

洋の動きと和の動き

着付けを教えている中で「ここさえ抑えれば気持ちよく着られる」というポイントが分かつたんですが、それを伝えても全く理解してもらえません。なぜ理解ができないのかを観察していると「そもそも

掃除・洗濯・買い物など、どんな家事も育児も着物でスイスイこなせる。



洋服からくる(洋の動き)で着物を着ているからだ」ということに気づきました。

例えば、お箸と茶碗を持って食べる時に脇を締めて食べますよね。でも、ナイフとフォークを使う時はどうですか?脇が空きますよね。引き戸の開け閉めは脇を締めてもできますが、ドアの開閉は脇が開きますよね?日本語で「脇が甘い」という表現があります。相撲では脇が開いていると相手にまわしを取られて負けてしまうことからきている言葉で、脇を締めれば最小限の力で最大限の能力を発揮することができ

ありますが、着物を着ていると自然にそういう動きになることが分かりました」という方がいました。もつと言つと、和の動きをしていると和の考え方にもなつてくるんですよ。そうしたことも講座でお伝えしています。

脇を締めた動きをしていると着物の袖が邪魔になることはありません。着物の形が私たちに(和の動き)を自然と教えてくれます。着物が着崩れてしまうのも、洋の動きをしているからです。無重力着付けの生徒さんで「日本の女性らしい美しい所作のレッスンを受けたことが

ありますが、着物を着ていると自然にそういう動きになることが分かりました」という方がいました。もつと言つと、和の動きをしていると和の考え方にもなつてくるんですよ。そうしたことも講座でお伝えしています。



家で着る時の心地よさを求めて集められた反物の数々。伝統工芸品はほとんど希少価値が高まっている。

脇を締めた動きをしていると着物の袖が邪魔になることはありません。着物の形が私たちに(和の動き)を自然と教えてくれます。着物が着崩れてしまうのも、洋の動きをしているからです。無重力着付けの生徒さんで「日本の女性らしい美しい所作のレッスンを受けたことが

ありますが、着物を着ていると自然にそういう動きになることが分かりました」という方がいました。もつと言つと、和の動きをしていると和の考え方にもなつてくるんですよ。そうしたことも講座でお伝えしています。

講座受付はこちらから



無重力着付け
オンラインショップ



無重力着付け
Instagram



秋田県鹿角市で〈クリーニングえどや〉を営む田中喜昭さんは、洗剤の研究を続けていたところ、皮膚がただれて骨が見えるほど悲惨な状態になる経験をした。現在は石けんなどの自然な洗剤に切り替え、地球と人と地域の“キレイ”を守り続けている。

「以前は日本一汚れが取れるクリーニング屋を目指して、合成洗剤の研究をしていました。洗剤の力を発揮させるためには洗う水を軟水にする必要があることに気づき、軟水化させるための薬品を導入しました。洗剤を掛け合わせてより強力に汚れが落ちるものを作り、毎日それを使っていました。そのうち、ある時から薬品を触ると身体に拒否反応が出るようになり、手の指の骨が見えるくらい皮膚がただれてしまったんです。

このまま続けていられないと思った時に、父の代の時はサメの油で作った石けんでクリーニングをしていたことを思い出し、石けんについて調べ始めました。国内で石けんを作っているメーカーを調べて見つけたのが福岡県にあるシャボン玉石けん株式会社でした。

実は、私はもつと昔にシャボン玉石けんに出逢っていたんです。私は子どもの頃からボーイスカウト※に入り、キャンプをして自然の中で過ごすことで自然の大切さなど多くのことを学びました。言ってみればこれが私の環境意識の原点ですね。ボーイスカウトへの恩返しもあって、大人になっても子ども達の引率兼指導者として活動を続けていました。30年ほど前にボーイスカウトの全国イベントで子どもたちを九州に連れていきました。その時の会場は牧場で、そのオーナーから『この草は牛に食べさせるものです。牛が洗剤を食べてしまわないように、ここで洗い物をすすめる時は合成洗剤を使わずこの石けんを使ってください』と言われ、粉石けんを渡されました。

でも、私は子ども達にそもそも洗剤すら使わないエコなキャンプを指導してしまいました。食器に袋やラップをかぶせ、その上に食べ物を置き、食べ終えたらそのビニール袋を汚れとともに縛って捨てるという方法です。水が手に入りにくい状況の場合、飲み水の確保が第一優先なので食器を洗う水を必要としない食事の仕方です。



クリーニングえどやの店内はクリーニング店特有の化学的なニオイがなく、石けんの爽やかな香りがする。



店内で販売しているシャボン玉石けんシリーズ



合資会社協和ランドリーえどや
社長 田中 喜昭さん

秋田県鹿角市で〈クリーニングえどや〉を営む。合成洗剤などの化学物質による自身の体調不良や肌荒れの経験から、石けんやナチュラル素材を使ったクリーニングに切り替えて「水だけで衣類をキレイにする」ことを最終目標とし、日々研究を続けている。

結局、もらった粉石けんは使わずに持ち帰りました。とはいえ、粉石けんをどうやって使ったらいいのかわからず、かといつてせっかくだから店頭の倉庫で眠らせていました。クリーニングに石けんを使おうと思った時にこの石けんのことを思い出し、倉庫から引っぱり出してみたら、(シャボン玉石けん)と書いてあるじゃないですか！さっそく使ってみると、汚れ落ちはいいし手荒れも

少ないので「これはいい！」と思い、すぐに福岡県に飛びましたね。シャボン玉石けんの本社にアポイントを取らずに行つて、受付で「社長に会いたい」と懇願したら、なんとその時はタイミンク良くお会いできたんです。合成洗剤の影響で身体が大変になった自分の経験をシャボン玉石けんの(前)社長にお話ししたら、「私もあなたと同じ経験をしました。だから合成洗剤から石けんに切り替



えたんです」という話を聞かせてくださいました。どこの誰かもわからないような自分が急に訪ねてきたのに受け入れてくださった嬉しさと、同じ境遇のお話に涙がポロポロとこぼれました。」

※青少年の旺盛な冒険心や好奇心をキャンパス生活や自然観察、グループでのゲームなどの中で発揮させ、「遊び」を通して自立心や協調性、リーダーシップを身につけさせる世界的運動。



「神の坐す布」と称された、鹿角紫根染・茜染。古代技法で作られたものは50年以上経った今でも輝き続けている。



鹿角紫根染・茜染研究会
会長 関 幸子さん

「この地域は夏に祭が多く、あつて、浴衣を着る機会が多く、うちのクリーニング屋でも毎年何百枚もの浴衣を洗っています。集落ごとに柄が異なり、集落の仲間の結婚式には浴衣を正装とするぐらい浴衣を着る文化が大切にされています。私がクリーニング屋を家業として続けて

いる理由の一つに、そうした地域の祭りや浴衣の文化を守って盛り上げていきたいという想いがあります。」
また、鹿角市には奈良時代から伝承されてきた（鹿角紫根染・茜染）という草木染があるが、明治期に一度途絶えてしまった。最初に復活させたのは先代まで紫根染めを家業としていた栗山文次郎氏（後の人間国宝）。その技術は息子の文一郎氏に引き継がれたが、継承者がおらず再度途絶えてしまった。再び復活させたのは元教員の関幸子さん（現 鹿角紫根染・茜染研究会会長）。関さんは栗山家に伝わって来た伝統技法を継承しつつ、染め体験などを通して鹿角紫根染・茜染の普及活動を行っている。

関さんは「地域の宝である紫根染・茜染を多くの方にみてもらいたい」と、鹿角市の事業として地元の商店街アーケードに75枚の紫根染・茜染タペストリーを飾るイベントを実施。その時に、地域活動を精力的にされていた田中さんが企画から運営まで全面的に協力した。関さんは「田中さんから『イベントで展示した作品はすべてうちが責任を持って洗います。』と田中さんは教えてくれた。」

「着る」とその先にある「洗う」。それは「着る」ことで伝統文化を継承し、地球と人にやさしい「洗う」ことを通じて、人と人がつながっていく。

「洗う」とは目の前から汚れが無くなることだけでなく、人や地域・文化とのつながりをも生み出すものであると田中さんは教えてくれた。



クリーニングえどや

本店：秋田県鹿角市花輪下花輪170
工場：秋田県鹿角市花輪六月田27-1
tel: 0186-23-2503 (本店)

鹿角紫根染・茜染研究会
公式HP



EMとは？

EMとは乳酸菌や酵母と、環境に働きをする光合成細菌を共生させたバイオ技術。発酵と蘇生の力によって農地を豊かにし、海や川の生態系を回復させ、健康と環境に関わる問題を解決する技術で、ユニセフや海外の政府機関の衛生プロジェクトでも使用されています。



タピオカ粉は元々食品なので、肌に触れてももちろん安全。

タピオカ粉で服にコーティング?!

現在、田中さんのお店（クリーニングえどや）では石けんを中心に、その他の天然素材やEM（有用微生物群）を活用してクリーニングを行っている。

「環境問題や自然由来の素材を使った洗剤に関心が向いた時にEMのことを知りました。クリーニング屋としてEMを研究した結果、石けんとEMがある一定比率にした時に石けんの効果が引き出されることと、仕上げに使う糊剤とEMを一緒に使うとすごく良いことがわかりました。うちではワイシャツなどをパリッとさせるための糊剤にタピオカ粉を使っています。タピオカ粉のたんぱく質が糊の役割になるんですよ。タピオカ粉にEMを合わせることで糊剤の伸びが良くなり、着た後に洗濯をする時の糊離れも良くなります。」

私が目指しているクリーニングは、衣類にも着る人にも地球にも、そしてクリーニング屋で働く自分たち

にも負荷が少ない、ローインパクトクリーニングです。ボイスカウト

では洗剤を使わないキャンプを実践していましたが、食器を洗う必要がないから、食器は傷まずに長持ちします。

クリーニングもまさにそのイメージで、服が汚れないようにコーティングできれば服が長持ちしませんが、そうしたコーティングの役割も担っているんです。汚れはコーティングしているタピオカ粉の方につくので、汚れが付いたタピオカ粉を取れば服はキレイなわけです。

一般的なクリーニングで使う糊剤は木工用ボンドと同じ成分なので、一度ついたらなかなか取れません。衣類の上に糊剤を塗ってその上に汚れがついて、またさらに糊剤をのせていくので、汚れがミルフィーユ状になり黒ずんでいきます。でも、タピオカ粉とEMの糊剤は洗濯で100%落ちます。洗剤も糊も天然成分なので、『うちのワイシャツは食べられますよ』なんてお伝えしています(笑)。」



地域の文化も『キレイ』に残す

鹿角市は青森県と岩手県の県境に位置する山間地域。人口3万人にも満たない小さな市だが、国重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産に登録されている花輪ばやしや毛馬内盆踊り、世界遺産に登録されている縄文遺跡群（大湯環状列石）など歴史と文化に富んでいる。



EMX GOLD
公式ページ



500ml **5,200円**(税込)

- ◎賞味期限／製造日より1年3ヶ月
- ◎保存方法／直射日光・高温多湿を避けて保存してください。保存料を使用しておりませんので、開封後は必ず冷蔵庫で保存し、1ヶ月以内にお召し上がりください。
- ◎原材料名／微生物培養エキス(糖蜜、酵母エキス)、粗製海水塩化マグネシウム、サンゴカルシウム
- ◎栄養成分及び含有量(100mlあたり)／エネルギー 0kcal、たんぱく質 0g、脂質 0g、炭水化物 0g、食塩相当量 0.05g

【お問合せ】
株式会社EM生活
☎ 0120-211-843
(9:00~15:00
土日・祝日・年末年始を除く)



EMX GOLDは、EM技術で開発された健康サポート飲料です。光合成細菌を中心とした有用微生物群(EM)から独自の技術で抽出した「光合成細菌生成エキス」が健康維持をサポートします。

EMX GOLDには生きた菌や酵素は含まれていません。光合成細菌をはじめとする乳酸菌や酵母などの善玉菌が作り出した微細で多様な生成物質が含まれています。

過酷な環境の太古の地球に誕生した光合成細菌は、有害な物質や光などのエネルギー

光合成細菌生成エキス
EMX GOLD
【イーエムエックス ゴールド】

を利用して、生命を守りながら進化したと考えられています。EMX GOLDには光合成細菌の生きる力が受け継がれています。

EMX GOLDを日常的に摂取することで加齢と共に気になる健康を維持する効果が臨床試験で実証されています。

明日が今日と同じ健やかな日であってほしい。

あなたと家族の笑顔の日々を、EMX GOLDと共に。

健やかな今日を、明日へ、未来へ。

生活のあらゆるシーンで習慣化！

そのまま飲む

一番シンプルな飲み方です。基本は1日10ml~30mlが目安です。



コーヒーやお茶に

お湯割りにしたり、お茶やコーヒー、味噌汁に入れて日々の習慣にしましょう。



炊飯時やお料理に

炊飯時や、煮物・炒め物などの調理時に加えれば家族みんなでシェアすることができます。



健康情報を発信しています。

私はお水に薄めて飲んでいました。母はご飯を炊く時に入れたり味噌汁に入れたりして飲んでいますが、EMX GOLDを食事に摂り入れるようになって、父も朝からスッキリできると喜んでいます。世の中が調子悪いと言っている中で、我が家はみんな元気です。体調が気になるとEMX GOLDと塩で治しました。自分で自分を守ることが必要なんですよね。私はツールペイントの講師をしていて、子どもたち向けのお絵かき教室も開催しています。教室に来てくださる生徒さんやお母さんたちにも少しずつ

健康に気をつける日々の積み重ねが元気になる。



お客様の声

徳島県 富永ゆかりさん